

港湾振興便り



2018. 1

第128号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ

—「海フェスタ」を7月に新潟で

開港150周年の前に盛り上げ—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 室蘭港でガントリークレーン供用式及び安全祈願祭を開催！

(室蘭市 港湾部 港湾政策課)

- 室蘭港広域防災フロート派遣訓練を開催

(北海道開発局 室蘭開発建設部 築港課)

- 釜石港湾口防波堤の災害復旧工事のケーソン最終函据付完了

(東北地方整備局 釜石港湾事務所 企画調整課)

- 「山形県酒田港ポートセミナー in 東京」を開催

(“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会)

(山形県 観光文化スポーツ部 経済交流課)

- クルーズの魅力を紹介！「金沢港クルーズセミナー」を開催！

(石川県 商工労働部 産業立地課 港湾活用推進室)

- 『第3回 深日港・洲本港航路に関する連携協議会』を開催

(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

- 第3回四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進協議会の開催について

(四国地方整備局 港湾空港部)

- 撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業完成式典の開催について

(四国地方整備局 港湾空港部)

- 「志布志市の有名どんぶり「志布志黒豚バルク丼」

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

3 お知らせ

◇港湾関係団体新春賀詞交歓会

* : * :

1 ポートエッセイ

—「海フェスタ」を7月に新潟で

開港150周年の前に盛り上げ—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

* : * :

日本港湾振興団体連合会にご参加・ご協力いただいている皆さま、新年明けましておめでとうございます。本年も各地の港湾の振興・活性化のため、ご尽力よろしく願いいたします。

(年明けから港に脚光を)

今年も全国の各地、各港でそれぞれの活性化に向けて仕込み・取り組みを進めていただいていることと思う。幸い、港湾関係の新年度予算案については皆さんのご尽力のお陰で良い形で土台が築かれ、感謝している。このことについては今月24日、東京で開催される港湾議連総会や港湾関係団体新年賀詞交換会などの場で関係者に御礼を申し上げたい。

一方、新潟市では新年度、新潟港が世界に開かれてから150周年の節目を迎える。開港150周年の記念事業の皮切りは7月14日からの「海フェスタにいがた」となる。海洋や港湾の素晴らしさを市民に広く知っていただく海フェスタには、これまで秋篠宮殿下・同妃殿下をお迎えしているので、新しい船出を飾るにふさわしい催しとなるだろう。今秋には港湾振興団体連合会の全国大会も新潟での開催を決定いただいているので、この機会にぜひ新潟にお出でいただきたい。

(ソフトパワーで活気を)

新潟では開港150周年を盛り上げる応援団「TEAM Nii port」(チーム・ニイポート キャプテン小林幸子さん)の活動が本格化してきた。まずは成人の日となる8日にAKBグループの新潟チームであるNGT48の協力を得て、「1時間で押された最多手形ペイント」でギネス世界記録に挑戦する。大きなキャンバスに手形をつけていき、1つの絵を完成させるもので、これまでの記録は1,055人とのこと。NGT48の集客力でギネス記録の更新に挑む。「港湾振興」の新年号が届くころには結果が出ているが、記録更新を祈っている。

その他の取り組みではローカルアイドル・ナンバーワンに輝いたNegicco(ネギッコ)がデザインする「開港150周年記念ラッピングバス」の考案にも入ってもらっている。さらに新潟の誇る古町芸妓と専門学校生がコラボレーションするスイーツ開発も3月の完成・発表に向けて取り組んでもらっている。

(西港に賑いの拠点整備)

一方では、新潟西港の拠点施設の整備も進めている。これは西港の中心部となる万代島の旧水産物荷捌施設を改修するものだ。延床面積約4,200平米の旧水産物荷捌施設は大きなかまぼこ屋根の建物で、通称「大かま」と呼ばれ、市民から親しまれてきた。改修前にもストリート・スポーツを楽しむ場として好評を得てきたが、このほど耐震工事を終え、3月にはお披露目の予定だ。デビュー戦は「にいがた酒の陣」を予定している。酒の陣は、県内約90軒の蔵元の酒を楽しめるイベントで、昨年は土曜日が7万5千人、日曜日は5万5千人の人出で大にぎわいだった。今年は大かまにも飲食スペースを用意しご利用いただく計画で、「みなとまち新潟」の素晴らしさを実感いただける大イベントとなると思う。開港150周年を大きく盛り上げるつもりなので、ぜひこの機会に新潟にお越しいただきたい。

今年1年、港湾の魅力を最大限引き出すよう、皆さんと共に頑張っていきますので、よろしくお願いします。

*:

2 トピック

*:

●室蘭港でガントリークレーン供用式及び安全祈願祭を開催！

(室蘭市 港湾部 港湾政策課)

12月15日(金)、室蘭港崎守多目的国際ターミナルにおいて、新ガントリークレーンの供用式及び安全祈願祭が執り行われました。

これまで、平成9年に横浜港から頂いたクレーンを活用してきましたが、製造から47年、譲渡を受けてから20年が経過し老朽化が顕著となったことから、このたび更新を行うこととしたものです。

新クレーンは三井造船大分工場において製作され、フォーク台船に載せて10月14日に大分港を出港、途中、台風の影響もありましたが、10月28日に室蘭港へ無事入港し、電気設備工事や検査を経て、供用式を迎えるに至りました。

供用式では、港湾管理者である室蘭市の青山市長が「新クレーン導入を契機に更なるコンテナ貨物の集荷に努めたい」と挨拶、続いて、北海道開発局・真田港湾空港部長より「室蘭港のコンテナ航路がより活発に利用され、地域の発展に繋がることを期待」との祝辞をいただきました。

その後、約40名の関係者の方々が見守る中、荷役始めが行われ、新クレーンの門出を祝いました。

新クレーンは、白鳥大橋や臨海部工場群の景観に配慮し青と白を基調とした配色を採用しているのが特徴です。

また、既存に比べてコンテナの巻き上げ速度が約1.4倍となるなど、作業効率が大幅に向上しますので、新規航路の誘致をはじめ、より一層のポートセールスに努めていきたいと思えます。



青山室蘭市長の挨拶



真田北海道開発局港湾空港部長の祝辞



集合写真



ガントリークレーン全景

●室蘭港広域防災フロート派遣訓練を開催

(北海道開発局 室蘭開発建設部 築港課)

広域防災フロートは、大規模地震・津波災害や火山災害等における緊急支援物資輸送、作業船等の係留施設や移動式ヘリポート等の機能を有し、平成23年3月に発生した東日本大震災では、岩手県大船渡港と福島県相馬港に燃料油など大量の緊急支援物資を運搬し、引続き作業船の係留施設として活用されました。

室蘭開発建設部では、平成24年6月に広域防災フロート派遣協議会を設立し、毎年1回大規模災害に備え情報伝達や派遣手順の机上訓練を実施しています。

今年度は12月21日(木)に室蘭開発建設部や室蘭海上保安部、室蘭市などの関係機関から約30人が参加し広域防災フロート派遣に備えた机上訓練を開催しました。

机上訓練では、北陸日本海沖地震を想定し、新潟県直江津港への広域防災フロートの派遣を想定して、えい航ルートや調達資機材等の内容確認、積込方法の確認など、大規模災害の出動要請に迅速かつ円滑に対応するための派遣手続きを確認いたしました。



机上訓練状況

●釜石港湾口防波堤の災害復旧工事のケーソン最終函据付完了

(東北地方整備局 釜石港湾事務所 企画調整課)

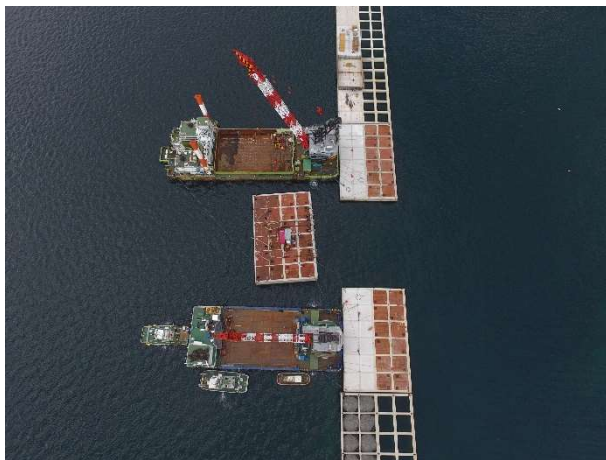
釜石港で最終となるケーソン(コンクリート製の函)を平成29年11月29日に据付けました。

今回据付けたケーソンは、大きさが長さ30m × 幅19.6m(21.6m) × 高さ15m、重さは約6,300tもありますが、釜石港湾口防波堤で使用するケーソンとしては小さめです。

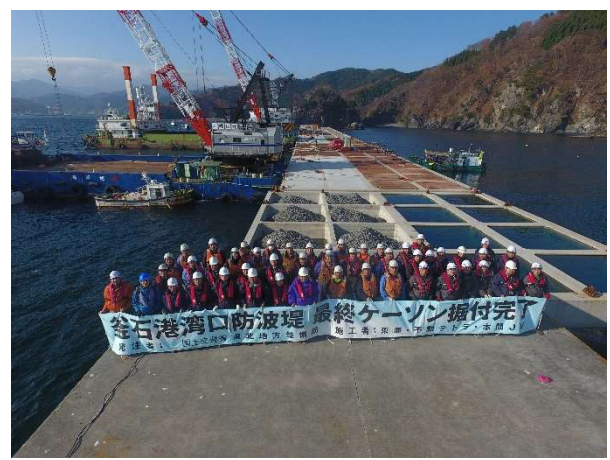
当日はケーソンの曳航を始めてから風が吹き始め、突風も吹く中での据付作業となりましたが、復興への皆の思いを乗せたケーソンは無事に据付けられました。

東日本大震災の津波で大きく被災した釜石港湾口防波堤ですが、足かけ7年で総延長1,960mの被災前の姿に戻りました。

現在は平成30年3月の完成に向けて上部コンクリートを施工しています。



▲ケーソン据付状況
(H29. 11. 29撮影)



▲工事関係者の記念撮影
(H29. 11. 29撮影)



▲最終函据付が完了した北堤
(H29. 12. 1撮影)



▲現在の湾口防波堤 (全景)
(H29. 12. 1撮影)

●「山形県酒田港ポートセミナー in 東京」を開催

（“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会）
（山形県 観光文化スポーツ部 経済交流課）

11月30日（木）、東京都内のホテルにおいて、“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会及び山形県の主催で「山形県酒田港ポートセミナー in 東京」を開催しました。

このセミナーは、貨物の物流ルートの決定権を有する本社や商社が首都圏に多くあることから酒田港の利便性を直接アピールするためのもので、船社、商社、物流業、製造業など約100社、200名の方に御参加いただき大盛況となりました。

セミナーでは、吉村 美栄子 山形県知事が「ぜひ酒田港を利用してほしい」とアピールしたほか、酒田港の施設整備が着々と進んでいることや船社と荷主に対するインセンティブ（助成等）を紹介しました。また、酒田港の海運貨物取扱業者2社が自社紹介を行い、花王株式会社酒田工場と株式会社でん六から、利用荷主の生の声として事例発表をしていただきました。



あいさつする吉村山形県知事



セミナー会場の様子
熱心に耳を傾ける参加者の皆様

●クルーズの魅力を紹介！「金沢港クルーズセミナー」を開催！

（石川県 商工労働部 産業立地課 港湾活用推進室）

12月9日（土）、金沢市内にて石川県、金沢市、（一社）金沢港振興協会の主催による「金沢港クルーズセミナー」を開催し、過去最多となる約480名が参加しました。講演では、人気クルーズライターの上田寿美子氏が、5月に乗船した金沢港発着クルーズで、出港イベントや加賀友禅大使らによる出迎えを実際に体験し、外国人の評価も高く日本でもトップクラスのおもてなしと評価したほか、国内外のクルーズの特徴や魅力を紹介しました。続いて、2018年の金沢港発着クルーズの運航船社が、それぞれの船や寄港地の特徴や魅力について紹介を行いました。

また、12月10日（日）に長野市内でも開催した「クルーズセミナーin長野」では、50人の定員に対して応募が殺到したため、急遽、午前と午後の2部制に変更し、200人を超える長野県民らが参加しました。

金沢港では、関係者が一体となってクルーズの魅力を発信することでさらなる誘客に取り組むほか、クルーズ船寄港時における『石川らしいおもてなし』の向上など、金沢港を日本海側のクルーズ拠点港として定着させるべく、今後も取り組んでいきます。



金沢港クルーズセミナーの様子



クルーズセミナーin長野の様子

●「第3回 深日港・洲本港航路に関する連携協議会」を開催

(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

12月13日(水)に「第3回 深日港・洲本港航路に関する連携協議会」(大阪府、岬町、兵庫県、洲本市、近畿運輸局、神戸運輸監理部、事務局:近畿地方整備局で構成)を神戸市内で開催しました。

当協議会は、観光振興、大規模災害発生後の物流・人流の代替性確保のための、深日港(大阪府岬町)と洲本港(兵庫県洲本市)を結ぶ航路の可能性について検討するため、平成28年4月に発足したものです。

今回の協議会では、航路の可能性検証のため今年の6月25日から9月30日にかけて岬町が行った社会実験運航の結果報告と今後の取り組みについて議論しました。

「社会実験運航の結果は、採算ラインには届かなかったが多くのサイクリストの利用があり新たな需要が把握できた。」などの結果報告の後、「利用者の行動パターンを分析し、ターゲットを決め対応策を考える必要がある。」といった意見が出されました。

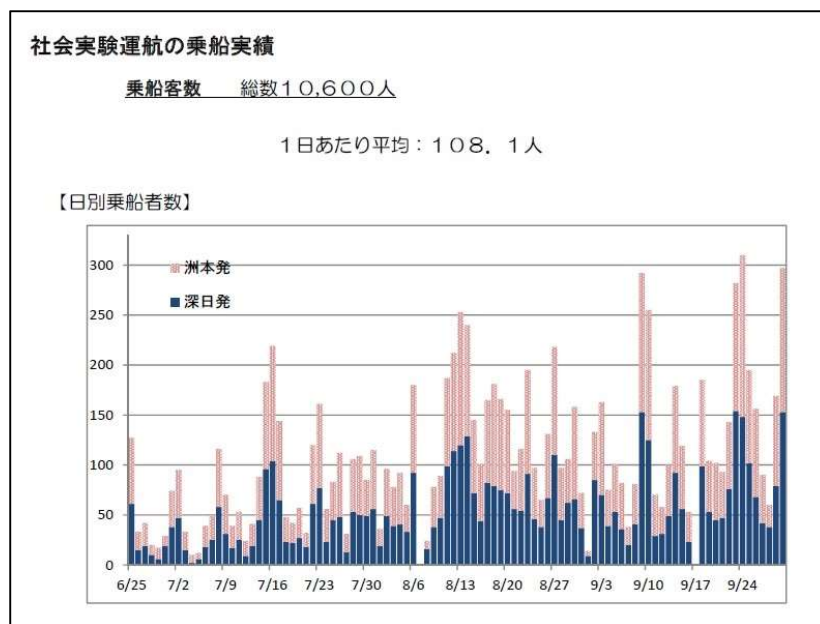
今後は、通年の本格運航実施に向けた課題を把握するための社会実験運航を目指し、協議会メンバーが連携して取り組んでいくことを確認しました。



深日港、洲本港の位置図



協議会の様子



●第3回四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進協議会の開催について

(四国地方整備局 港湾空港部)

平成29年11月21日(火)、第3回協議会を開催しました。本協議会は、陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトの推進を図るため、平成28年11月30日に設置したものです。今回は、前回の協議会(平成29年3月13日)でとりまとめた提言「四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進に向けて」に対する取組状況、新たな事業者ニーズについて意見交換を行いました。

本協議会ではモーダルシフトPR用ツールとして協議会で作成したパンフレットについて、更に分かり易くした改訂の実施、無人航送の増加に伴うシャーシヤードの不足、フェリー・RORO船の運航情報等一括検索システムの構築検討などが挙げられました。

これらの意見への対応は平成30年2月に開催予定の第4回協議会で議論し、新たな提言として取りまとめる予定です。



▲第3回四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進協議会の様子
(於:かがわ国際会議場)

◆本協議会の検討内容については、以下のURLより閲覧できます。

四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進協議会HP

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/general/policy/ferryroro.html>

●撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業完成式典の開催について

(四国地方整備局 港湾空港部)

平成18年度より整備を進めてきた、撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業が平成29年9月29日に完成し、12月17日(日)に徳島県鳴門市のBOAT RACE鳴門にて、完成式典を開催しました。

式典には、地元選出の国会議員、県議会議員、市議会議員、地元自治体関係者及び工事関係者など、約160名の方々に参加いただきました。

本事業は、病院・学校などの公共施設や住宅が集中する、鳴門市中心地域の貴重な生命・財産を津波・高潮から守ることを目的として、既存堤防の嵩上げや液状化対策のほか、陸間の電動化、自動化を行いました。今回の整備により、堤防2,590mを改良し、設計津波に対する防護面積は約330ha、防護人口は約10,200人となります。完成にあたって地元住民をはじめ、地元企業の方から喜びの声もお聞きすることができました。



山口衆議院議員による祝辞



石田衆議院議員による祝辞



中西参議院議員による祝辞



海岸保全施設目録の引渡し

完成式典は、主催者である平井四国地方整備局長の式辞で始まり、飯泉徳島県知事からは「本事業が早く完成することを待ち望んでいた」、菊地港湾局長からは「地域の皆様の安全・安心の確保や地域の経済活動の更なる活性化にも寄与するものと期待」との挨拶がありました。

続いて、来賓の山口衆議院議員、石田衆議院議員、中西参議院議員のお三方から祝辞をいただいた後、地元を代表して泉鳴門市長から「新しい技術の活用など、防災機能を確保しつつ、親水性や景観にも配慮して施工頂けたことをとても深く感謝している」との挨拶をいただきました。

この後、事業概要の説明をし、平井局長より飯泉知事へ海岸保全施設目録を引渡し、地元小学校の児童を交えてのテープカットと、大型スクリーンを使用して、事業の紹介や感謝の気持ちを込めた映像の上映を行いました。

式典会場に、ボートレース鳴門のマスコット「なるちゃん」とテレビ鳴門のマスコット「ムヤくん」も駆けつけてくれ、事業の完成をともに祝ってくれました。

最後に、サプライズで鳴門市阿波踊振興協会の「鳴門市連」による阿波踊りが披露され、しなやかで美しい女踊りと豪快で力強い男踊りで、式典の最後を華やかに締めくくっていただきました。



テープカット



鳴門市連による阿波踊り

●～「志布志市の有名どんぶり「志布志黒豚バルク丼」～」

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

鹿児島県志布志市内の目抜き通りにある食堂「^{どん}や^わか^わ」。ここでは鹿児島産の黒豚やウナギ、ちりめんなどを使った多くの美味しいどんぶり料理が食べられますが、特に目を引くメニューは、「志布志黒豚バルク丼」！「黒豚」で柔らかくおいしい豚肉が入っていることは想像できますが、「バルク」とは？と思った皆様に、その名前の由来を紹介します。

突然、「港」の話になりますが、志布志港は平成23年度に「国際バルク戦略港湾(穀物)」に選定されました。「志布志黒豚バルク丼」は、この選定を記念した料理で、安心新鮮の大隅産を中心とした黒豚と、志布志港のバルク港湾対象品目である「とうもろこし」を彩りとしてトッピングした丼です。

これまでなじみのなかった「バルク」という用語が志布志市民に知れ渡り、テレビ局や新聞、グルメ雑誌等から多くの取材が行われ、志布志市の名前が「志布志港」と共に全国に知られるきっかけとなりました。

鹿児島県にお越しの際は、是非！志布志市を訪れ、地元から愛され続けるこの素晴らしい料理をご賞味ください。ちなみに「^{どん}や^わか^わ」の住所は、「志布志市志布志町志布志2-1-14」です。

